

2017年 新年メッセージ

いつくしみから踏み出す第一歩

昨年は地震、火山噴火、台風など自然災害に苦しんだ年でした。まだビニールシートで覆われたままの家や、ひび割れや傾いたままの家に住み続けている方々や仮設住宅におられる方も沢山いると思います。多くの方々の善意の支えの中で、被災された方々と心をつなげながら、新しい年を迎えた福岡教区民の上に、神様からの祝福と平和が豊かにありますようにお祈り致します。

● 昨年の取り組み

昨年の福岡教区の目標は、「いつくしみの特別聖年」を制定したフランシスコ教皇様のご意向に合わせて、「いつくしみ深く、御父のように」を目標にしながら、同時にそれまで2年間継続して取り組んだ「信仰の伝達」を具体的な目標にしました。

そして、その目標に沿って各小教区や各地区で具体的に取り組んだ活動の実りが「教区の日」のミサ聖祭の中で神様に奉納されました。

昨年は、教皇様の大勅書などの具体的なご指導もあり、教区目標の「信仰の伝達」が教区民の中になかなか浸透しているとの手応えがありました。

主任司祭と教会役員さんをはじめ、教区の目標に誠心誠意ご尽力くださっている皆様に敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

● 今年目標

昨年は特別聖年によって神のいつくしみを身近に体験できました。

このお恵みをさらにもう一歩前進させるために、今年目標を「いつくしみから踏み出す第一歩」とします。

聖年の扉は閉じました。しかし、神のいつくしみは閉じられていません。

むしろ、私達が心の扉を開く限り、それは永遠無限に続くものであり、いつも大きく開かれているからです。特別聖年の閉幕に際して、フランシスコ教皇は使徒的書簡「ミゼルコルディア・エト・ミゼラ」を發布され、その中で、「いつくしみの特別聖年で頂いた恵みを振り返る時に、そのいつくしみがさらにより広く、具体的に広がるようにとの呼びかけが聞こえて来るはずですよ」とおっしゃっています。

まさに、昨年の震災の体験は、神様のみ摂理と多くの方々の善意を身近に感じることができましたが、それらに対する感謝の気持ち、果すべき務めに対する責任、私たちの旅路を支え続けておられる復活した主の力に伴われているという確かな信頼などが、逆境を通してさらに強められました。

その体験は、私たちのまなざしをもっと真剣にいつくしみの方に向けるように促し、キ

リストによってもたらされた救いの業に協力するように招き、その歩みをさらにもう一歩進めるように勧めているからです。

●今年取り組み

各小教区や共同体で昨年実践した特別聖年の取り組みを参考にして、今年はそれをさらにもっと具体的な取り組みになるように企画・推進して下さるようお願いいたします。教皇様は上記の使徒的書簡の中で、

「①ミサ聖祭、ゆるしの秘跡、病者の塗油を通していつくしみを記念し、体験し、実現するように。

②聖書を通して具体的にいつくしみに出会い、触れ、身近なものにするように。

③助けを必要としている人々に寄り添うことによっていつくしみを豊かに体験し続けるように」と願っています。

特に、ミサ聖祭では冒頭から、「主よ、あわれみ給え」「キリスト、あわれみ給え」と繰り返し、「全能の神が、私たちをあわれみ、罪を赦し、永遠のいのちに導いてくださいますように」と宣言しますが、会衆の祈りと御父との対話の中で、いつくしみが終始一貫して具現されます。

ゆるしの秘跡に関して、教皇様は、ヨハネ福音書で紹介される姦通の現行犯で捕まった女性に対するイエスの対応から、いつくしみの全容を詳細に解説し、最終的に現場に残ったイエスと女性の風景から、「残ったのは『ミゼリコルディアとミゼラ（いつくしみといつくしみを受けた女）』だけであった」と結論付けて、それがこの使徒的書簡の表題になっています。

「罪の無い人がこの人に石を投げなさい」とのみことばを心に留めながら、昨年の参考目標の一つであった「共同体内部の非難、中傷、悪口、裁きなどの撲滅に心掛け、そのために祈り続ける」ことに特に心掛けたいと思います。

●いつくしみの応答としての信仰の伝達

私たちは、昨年の特別聖年に関する教皇様の呼びかけに従って、「信仰の伝達」に特に力を入れました。具体的に、「無関心という壁を壊すことができるようにすべての人に心を開き、世界の悲惨さと尊厳を奪われた多くの兄弟姉妹の傷をよく見るために目を開き、助けを求める人々の叫びに気付けるように耳を開き、私たちの存在と友情と兄弟愛の温もりを感じ取って頂けるように手を握る」（大勅書 15）ように努力しました。

「信仰の伝達」は困難だと諦めてしまう傾向があるかもしれません。現実には確かに厳しいです。もし信仰を重荷、義務、務めなどの側面しか受止めないなら、前向きになれないかもしれません。しかし、信仰とは、真心から信頼できるお方との出会いであり、すべてを委ねることの出来るお方との交わりであり、そこには信頼と喜びと希望が溢れているはずです。

その延長線上に、人に優しく、寛大で、共感し、ゆるしの心を持つことができるようになり、教皇様が切望なさっている「いつくしみの効果的な証人」になることができるのです。

今年は特に青少年への信仰伝達と教会を離れている方々への配慮に力を注ぎたいと思います。

●最後に

今年2017年は福岡教区創立90周年目になります。

つまり、10年後の2027年は教区創立100周年を迎えることになります。

10年後の教区創立100年記念を単なる惰性の繰り返しによる

年月の積み重ねによって迎える100年目ではなく、一年一年を具体的な目標をもって積み重ねていきながら100年目を迎えるような年にしたいと思っています。

一年毎に積み重ね上げていくその努力の積み重ねこそが大切だからです。

「教区の日」も同様に、単なるイベントで終わるのではなく、また発表が大事ではなく、一日一日の積み重ねの努力を大切にしたいと思っています。

今年も、11月23日（木）「勤労感謝の日」に予定している「教区の日」に、

教区民が司教座聖堂（大名町教会）に集まり、ミサ聖祭の中で、各教会、各地区、各共同体や各団体が一年間の目標に取り組んだこととその営みをお捧げしたいと思います。

いつくしみの特別聖年の豊かな体験からさらに第一歩を踏み出す福岡教区民の中に、神のみことばがこだまし、そのみことばがゆるし合い、支え助け合う愛の行いとなって神の民の中に響き渡りますように。



カトリック福岡教区司教
†ドミニコ宮原良治